

北限(?)のイエシロアリ被害

田中 勇史

関東白蟻防除株式会社

今年に入り、これまで確認がされていなかった茨城県結城市にて初となるイエシロアリの被害が発見されました。

発見の経緯

発見に至った経緯は、平成23年2月にわが社にかかってきた「我が家に、アメリカカンザイシロアリの被害が発生しているようなんです」という一本の電話からでした。お話を聞いてみますと「糞のようなサラサラした粉が落ちてくる。」「普通のシロアリの駆除を何回か行っているが一向に止まりません。」「どうも違うシロアリのようです。」「など様々な情報をお聞きすることができましたが、当方よりアメリカカンザイシロアリの特徴的現象をお話しすると、なかなか一致点が見い出せませんでした。そこで、採取してあるというシロアリと糞と思わしきものを郵送して

頂き、確認することとなりました。そして、送られてきたシロアリを同定し、イエシロアリであることが確認されました(写真1)。また、糞と思われていたものは紛れもない分巢の欠片であることが分かりました。



写真1 フローリング下地やベニヤに生息するイエシロアリ

被害報告では最北限

この採取された場所である茨城県結城市の地理的条件は、北緯36度19分(35度53分)、東経139度54分(140度40分)であり、これまで被害の報告がされていた潮来市辺りのラインよりもさらに上に位置しています。(一)内は潮来市の北緯、東経です。年間平均気温を見ても結城市は年平均13.2℃(14℃)とこれまた潮来市に比べ1℃以上も低い値を示しています。これら地理的条件等から見て、我々が知る限りでは最北の被害報告例です。

現場調査

調査は、建物全体はもとより、周辺環境なども入念に行いました。その際ターマトラック等の検査機器も用いて実施しました。その結果、具体的な被害発生箇所は、目に見える所では、まず3箇所(写真2)に「盛り上がる」という形で発現していました。この盛り上がるという表現からもこのシロアリがヤマトシロアリではないと分かります。後に判ったことであるが、この現象は荒床の合板とフローリングの間を食害されたために、接着剤が切れフローリング材が跳ね上がった為にこのような現象が起こったものでした(写真2)。



写真2 フローリングの盛り上がり

部に有ったことが分かっています(写真3)。(以前の別の業者による駆除の際に取り除いてあったため、我々の調査の際にはそこには分巢はありませんでした。)



写真3 壁内部の分巢

さらに、玄関向かって左側のお部屋の荒床の合板と断熱剤の部分にも分巢と思われる塊が工務店の方の写真よりあったことが分かっています。その他では、南側を中心に床下木部に被害が確認されました。(被害状況図を参照)

以上で大方の調査を終えることができました。一つ今回の調査において残念なことは、本巣の発見までには至らなかったことです。ですが、南東角に最初の侵入口である蟻道を見つけており(写真4)、分巢位置や被害箇所などいくつかの根拠から推測し、住宅玄関ポーチから犬走りの間に本



写真4 最初の侵入に使用した蟻道

巣があるのではないかとということまでは絞り込めませんでした。この場所は、建物の外周において日の出から日没まで日当たりの良い場所に位置しています。また、この場所は南西角には散水栓が立ち上げられており、水取りには絶好の環境が整っています。ほぼこの位置と判断し、駆除施工を行っています。

周囲の環境は、標高50〜60mの台地に広がる田園地帯で砂礫土質の土地に建物が建てられていました。周りに目立った植栽はないが、その昔は雑木の防風林だったのかもしれない。

駆除施工

3月に入り駆除作業を行いました。処理内容は以下の通りです。南側被害箇所を中心に犬走り

(写真5)・外壁(写真6)・玄関ポーチ・エントランス(写真7)・玄関土間(写真8)・ドア枠・スロープ部(写真9)・住宅側玄関壁体内被害箇所近辺木部(写真10)・床下被害木部穿孔注入処理を行い、床下土壌処理(ベタ基礎)・床下木部吹き付け処理・2F点検口より1F玄関側天井裏の吹き付け処理を行っています。



写真6 外壁処理



写真5 犬走り処理



写真7 エントランス処理



写真8 玄関土間処理



写真9 スロープ処理



写真10 分巢部周辺処理

内壁処理ではなく外壁処理としたのは、内壁が木製で木部に穿孔するよりは、外壁が陶製タイルであったため、タイルの目地に穿孔した方が景観を損ねにくいとの判断によるものです。通常、ヤマトシロアリでは、玄関エントランス部やスロープといった箇所の薬剤処理は行いませんが、今回被害をもたらしたシロアリがイエシロアリであり、これらエントランス部や犬走り下、に本巣がある可能性があることから重点的に穿孔注入処理を行っています。

また、住宅側玄関部では、玄関内クローゼットとタタキ部との隙間よりシロアリが侵入してきていましたので、タタキ部タイル角が欠けるリスクは有りましたが、際部への穿孔注入処理を行っています。